

○「齋藤喜博の授業」を追求する

宮川 佳代子

久保齋先生を塾長に、四月から戦後教育実践史の原点である「齋藤喜博を読む会」を三回行った。そこで学んだことを宮川先生を始め、宮本先生、早川先生、森笹先生の四人の先生方がいろんな視点から伝えて下さった。

教材研究とは

教材研究というと、今は指導案検討であり、教え方を考えることだと思っている人が多い。しかし、昔は教え方ではなく、その教材がどんなことをいいたいのか、教材そのものを研究することであった。齋藤喜博は、「教材研究を深くしなければならぬ。一人よりも大人数で行なう。教師が本質を見抜き、本質を見極められる子どもに育てる。」と考えた。目の前の子どもたちを質的に転換させることが教師の役割。そのためには、教材研究が大事なのである。

提案 宮川 佳代子

「愛を育む学級づくり」とは？

学習規律を意識し過ぎるあまり、一人ひとりに「ダメな子」という印象を与えていないか。どんな子ども、その子の「以前より輝いたこと」を見つけて価値付ける。

先生が言ったからやる子ではなく、先生のことを考えてやれる子を育てるようにする。子ども達は、皆に愛されているとは感じているが、自分が相手を愛して行動したことを意識したことは少ない。相手、先生を意識して行動する体験をさせることが大切。

班活動を中心にした学級づくり

友達と協力して何かに取り組み、成功することに喜びを感じる。グループでの活動を多く経験させることが大切。

班づくり

人は集団で力を合わせて生きていくことを伝え、どんな人でも活動できるようにする。そのため、くじで班替えをひと月に一回行う。不都合なことは、皆で話し合っ

調整するように。

班長とリーダー

班では、一人ひとりに責任を持たせる。班長、副班長、係リーダー、環境リーダー、体育リーダー、給食リーダーなど。それぞれの役割についても細かく分担しておく。

係の仕事

係は、「仕事の係」と「皆を楽しませる係」とを区別して、活動、練習発表を行わせる。

班長会 学級会

毎週金曜日に、定例の班長会をする。自分たちの学級で起こっていることを自分達で話し合い、解決へ向かうようにする。

なかよし集会

毎月、いろいろな集いを企画させる。集会後の班長会では、評価を行わせる。今は学級会の時間がないが、工夫して話し合わせる。

いろいろな場面での班活動

班活動は、授業でも取り入れる。共同の作業でも。いろいろな教科の活動で活用して、協力する楽しさを感じさせて成長させる。

自己完成力

子どもたちは自分で伸びていく力を持っており、その成長を楽しみ、喜んで生きていく力。このような力を子どもにつけたいと強く願っていた。教師は自己完成の道に子どもを導かなければならない。

齋藤喜博を知れば知るほど、学力研が大切に行っていることにつながっているのがわかる。子どもに優劣をつけず、どの子も伸びる実践を続けていくことの大切さを今一度確かめたい。